



学 会 通 信

第 108 号

2023 年 10 月 12 日発行

目次

2023 年度定例会総会開催通知（会告）	2
第 30 回 日本教育メディア学会年次大会のご案内【直前号】	8
国際学会 ICoME2023 の開催報告および ICoME2024 のご案内	12
2023 年度 第 1 回研究会のご報告	13
2023 年度 第 2 回研究会のご案内	14
論文投稿のご案内	15
学会費納入のお願い，入会者・退会者	16

2023 年度定例会総会開催通知（会告）

正会員各位

下記により 2023 年度日本教育メディア学会定例会総会を開催いたします。会員各位の出席をお願いいたします。なお、ご出席されない方は、事務局から送られたメールに記載されている様式で委任状をお送りください（2023 年 11 月 3 日（金）締め切り）。

2023 年 10 月 15 日
日本教育メディア学会
会長 中橋 雄

記

1.日 時：2023 年 11 月 4 日（土）13:00－13:50（年次大会第 1 日目）

2.場 所：関西大学初等部

3.内 容：

（1）議案

第 1 号議案 2022 年度事業報告及び収支決算承認の件

- ①機関誌発行
- ②査読システムの運用
- ③年次大会の開催
- ④学術交流等
- ⑤2022 年度収支決算（案）、監査報告

第 2 号議案 2023 年度事業計画及び収支予算承認の件

- ①機関誌発行
- ②査読システムの運用
- ③年次大会の開催
- ④学術交流等
- ⑤2023 年度収支予算（案）

第 3 号議案 その他

（2）報告事項

- ①表彰「日本教育メディア学会論文賞」審査経過と結果報告
- ②名誉会員の表彰
- ③2024 年度年次大会の件
- ④その他

以上

(1) 議案

第1号議案 2022年度事業報告及び収支決算承認の件

2022年度に実施した事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 「教育メディア研究」第29巻1号, 第29巻2号を刊行し, 在会会員に配布した。
2. IJEMT Vol.16, No.2 を刊行した。
3. 学会通信第102号(2022年5月24日発行), 第103号(2022年7月5日発行), 第104号(2022年11月9日), 第105号(2022年1月29日発行)を刊行し, 会員に配布した。

②査読システムの運用

1. 国内ジャーナルにおいて新査読システムの運用を開始した。
2. 国際ジャーナルにおいて Open Journal System(OJS)のクラウドサービス運用を開始した。

③年次大会の開催

日本教育メディア学会第29回年次大会を, 椋山女学園大学で開催した(2022年11月26日-27日)。また, 「第29回年次大会発表論文集」を刊行し, 申込者に配布した。

④学術交流等

1. 次の研究会を開催した。
 - (1) 2022年度第1回日本教育メディア学会研究会
(2022年7月10日・東京学芸大学/オンライン)
 - (2) 2022年度第2回日本教育メディア学会研究会
(2023年3月18日・広島経済大学)
2. ICoME2022 を共同開催した。
(2022年8月3日-4日: オンライン開催(事務局: アメリカ, ハワイ大学マノア校))
3. 企画委員会による年次大会での企画委員会セッションを開催した。

⑤2022年度収支決算(案), 監査報告

2022年度収支決算(案)を次ページに記す。

2022年度 決算報告

財務諸表

1 貸借対照表 2023年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	6,629,373	6,259,922	369,451
仮払金	0	0	0
流動資産計	6,629,373	6,259,922	369,451
資産計	6,629,373	6,259,922	369,451
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	0	1	-1
預り金	26,546	0	26,546
流動負債計	26,546	1	26,545
負債計	26,546	1	26,545
III 正味財産の部			
1 一般正味財産			
正味財産計	6,602,827	6,259,921	342,906
負債及び正味財産計	6,629,373	6,259,922	369,451

2 正味財産増減計算書
2023年3月31日現在

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減	備考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常収益の部				
(1) 経常収益				
① 入会金	90,000	74,000	16,000	* 入会金小計
入会金	90,000	74,000	16,000	正会員29名、学生会員16名
② 会費	2,705,000	3,135,000	-430,000	* 会費小計
正会員会費	1,981,000	1,729,000	252,000	283名分(昨年度247名、正会員数298名)
学生会員会費	164,000	128,000	36,000	41名分(昨年度32名、学生会員数50名)
団体会員年会費	300,000	300,000	0	6団体分(団体会員6団体)
購読会員年会費	35,000	28,000	7,000	5会員分(購読会員7会員)
過年度正会員会費	189,000	602,000	-413,000	のべ27名分
過年度学生会員	36,000	48,000	-12,000	のべ9名分
過年度団体会員年会費	0	300,000	-300,000	6団体分(団体会員6団体)
過年度購読会員年会費	0	0	0	
③ 事業収益	651,000	812,000	-161,000	* 事業収益小計
刊行物頒布収入	100,000	318,000	-218,000	別刷印刷の著者購入代
全国大会参加費収入	551,000	494,000	57,000	201名分(現職初等中等教員21名は無料)
④ 雑収益	764	46	718	* 雑収益小計
受取利息	53	46	7	利息
授業目的公衆送信補償金	711	0	711	2件
経常収益計	3,446,764	4,021,046	-574,282	* 年度の総収入額
(2) 経常費用				
① 事業費	2,277,841	2,307,947	-30,106	* 事業費小計
通信運搬費	54,734	132,200	-77,466	学会誌・別刷郵送費、請求書等郵送費
システム運営費	342,170	718,123	-375,953	直読システム初期構築費、研究委員会(国内) Wifiレンタル費、Webサーバ料金等
消耗品費	188,202	202,923	-14,721	年次大会開催のための消耗品、論文賞賞状等、文具等
印刷製本費	447,700	404,580	43,120	教育メディア研究29(1)・29(2)、別刷
会議費	80,000	75,805	4,195	年次大会会議費、弁当茶菓子代等
顕彰事業費	55,859	55,685	174	論文賞賞金、賞状等
旅費交通費	95,970	0	95,970	年次大会講師交通費
支払手数料	93,215	41,662	51,553	年次大会Peatix利用手数料、振込手数料等
委託費	489,000	534,165	-45,165	論文誌作業費
諸謝金	45,000	16,705	28,295	年次大会講師謝金
雑費	385,991	126,099	259,892	年次大会・事務局論文誌発送等の運営補助費
② 管理費	826,017	930,477	-104,460	* 管理費小計
通信運搬費	5,300	8,390	-3,090	業者との通信費等
システム運営費	307,474	352,132	-44,658	会員管理システム利用料(年間)、e選挙利用料、クラウド会計システム利用料等
旅費交通費	29,600	22,000	7,600	監査に係る旅費
消耗品費	0	5,265	-5,265	事務局文具等
支払手数料	113,643	140,041	-26,398	会員管理システム利用手数料、振込手数料等
諸謝金	370,000	356,386	13,614	事務局補助謝金、WEBサーバー調整費等
雑費	0	46,263	-46,263	新事務局什器整備
経常費用計	3,103,858	3,238,424	-134,566	* 年度の総支出額
当期一般正味財産増減額	342,906	782,622	-439,716	* 学会の財産の1年間における増減額
一般正味財産期首残高	6,259,922	5,477,300	782,622	* 年度初めの資産の額
一般正味財産期末残高	6,602,828	6,259,922	342,906	* 年度終わりの資産の額
II 正味財産期末残高	6,602,828	6,259,922	342,906	* 本学会の資産の額

「*」がある備考欄は科目そのものの説明

第2号議案 2023年度事業計画及び収支予算案

2023年度に実施する事業は次のとおりである。

①機関誌発行

1. 「教育メディア研究」第30巻1号、第30巻2号を刊行し、会員に配布する。
2. IJEMT Vol.17, No.1, No.2 を刊行する。
3. 学会通信第106号－第109号を刊行し、会員に公開する（メーリングリスト、Webサイト）。

②査読システムの運用

主要な論文データベース（Scopus など）への登録申請に向けた議論を継続し、要件未達の部分についての対応を協議する。

③年次大会の開催

日本教育メディア学会第30回年次大会を、関西大学初等部で開催する（2023年11月4日－5日）。また「第30回年次大会発表論文集」を刊行し、申込者に配布する。

④学術交流等

1. 次の研究会を開催する。
 - (1) 2023年度第1回日本教育メディア学会研究会
(2023年6月17日・桃山学院大学)
 - (2) 2023年度第2回日本教育メディア学会研究会
(2024年3月17日・長崎大学)
2. ICoME2023 を共同開催する。
(2023年8月16日－18日：対面・ハイフレックス開催（事務局：中国、温州大学）)

⑤2023年度収支予算（案）

2023年度収支予算（案）を次ページに記す。

2023年度 予算案
1 2023年度収支予算案
2023年4月1日から2024年3月31日

(単位：円)

科 目	2023年度予算額	2022年度予算額	予算額の差異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常収益の部				
(1) 経常収益				
① 入会金	60,000	60,000	0	* 入会金小計
入会金	60,000	60,000	0	
② 会費	2,473,000	1,981,200	491,800	* 会費小計
正会員会費	1,890,000	1,430,800	459,200	7,000円×301名の納入率約90%
学生会員会費	180,000	98,400	81,600	4,000円×51名の納入率約90%
団体会員年会費	300,000	300,000	0	50,000円×6団体
購読会員年会費	42,000	49,000	-7,000	7,000円×6会員
過年度正会員会費	35,000	70,000	-35,000	7,000円×5名(未納者の約30%)
過年度学生会員	12,000	12,000	0	4,000円×3名(未納者の約30%)
過年度団体会員年会費	0	0	0	
過年度購読会員年会費	14,000	21,000	-7,000	7,000円×2会員(年未請求書に間に合わなかったため)
③ 事業収益	510,000	460,000	50,000	* 事業収益小計
刊行物頒布収入	160,000	200,000	-40,000	別刷印刷の著者購入代
全国大会参加費収入	350,000	260,000	90,000	3,000円×110名(正会員) 1,000円×20名(学生)
④ 雑収益	55	50	5	* 雑収益小計
受取利息	55	50	5	利息
授業目的公衆送信補償金	0	0	0	
経常収益計	3,043,055	2,501,250	541,805	* 年度の総収入額
(2) 経常費用				
① 事業費	2,537,920	2,532,000	5,920	* 事業費小計
通信運搬費	61,000	101,000	-40,000	学会誌・別刷郵送費、請求書等郵送費
システム運営費	311,000	360,000	-49,000	査読システム利用費、Webサーバ料金等
消耗品費	226,270	231,000	-4,730	年次大会開催のための消耗品、論文賞賞状等、文具等
印刷製本費	450,000	450,000	0	教育メディア研究30(1)・30(2)、別刷
会議費	260,000	200,000	60,000	理事会・年次大会会議費、弁当茶菓子代等
顕彰事業費	50,000	56,000	-6,000	論文賞賞金
旅費交通費	100,000	0	100,000	年次大会招聘旅費等
支払手数料	116,650	64,000	52,650	年次大会システム利用手数料、振込手数料等
委託費	500,000	550,000	-50,000	論文誌作業費
諸謝金	65,000	195,000	-130,000	年次大会講師謝金
雑費	398,000	325,000	73,000	年次大会・事務局論文誌発送等の運営補助費
② 管理費	821,000	820,000	1,000	* 管理費小計
通信運搬費	6,000	5,000	1,000	委嘱状送付
システム運営費	310,000	300,000	10,000	会員管理システム利用料(年間)、クラウド会計システム利用料等
旅費交通費	50,000	50,000	0	監査に係る旅費
消耗品費	5,000	5,000	0	事務局文具等
支払手数料	120,000	120,000	0	会員管理システム利用手数料、振込手数料等
諸謝金	320,000	320,000	0	事務局補助謝金
雑費	10,000	20,000	-10,000	教育関連学会連絡協議会年会費
経常費用計	3,358,920	3,352,000	6,920	* 年度の総支出額
当期一般正味財産増減額	-315,865	-850,750	534,885	* 学会の財産の1年間における増減額
一般正味財産期首残高	6,259,922	6,259,922	0	* 年度初めの口座残高の額
一般正味財産期末残高	5,944,057	5,409,172	534,885	* 年度終わりの口座残高の額
II 正味財産期末残高	5,944,057	5,409,172	534,885	* 本学会の資産の額

「*」がある備考欄は科目そのものの説明

第30回 日本教育メディア学会年次大会のご案内【直前号】

年次大会実行委員長 石井芳生(関西大学初等部)

第30回日本教育メディア学会年次大会は、2023年11月4日(土)、5日(日)に関西大学ミュージックキャンパス初等部を会場とし、開催いたします。

日本教育メディア学会は、新型コロナウイルス感染症拡大により2020・2021年度の年次大会・研究会は、オンライン開催を余儀なくされたものの、2022年度は、会員・参会者の皆様のご尽力により対面での開催を実現することができました。コロナ禍期間は、オンライン通信のノウハウや利点に気づくこともできましたが、それ以上に、一堂に会し、自他の研究について議論できる対面の良さを改めて痛感した時間でもありました。

一人一台端末や人工知能チャットボットの活用がメディアに頻繁に取り上げられるなど、教育やメディアを取り巻く環境が日々進化・変化する実態を鑑みるにつけ、本学会が担う役割や期待も大きくなっていると感じています。本年次大会では、より広範な領域、場面における教育メディア研究の成果を共有し、議論を通して、豊かな学びと社会を築ける場を、皆様とともに創りたいと存じます。

今回の年次大会では、懇親会も開催いたします。懇親を深める場にしていただけたと考えております。会場最寄り駅である JR 高槻駅は、JR 大阪駅から約 15 分、JR 京都駅から約 13 分とアクセスがよい場所にございます。大会実行委員会一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

1. 大会プログラム

1 日目 11月4日(土)

10:00-12:00 理事会

12:00- 受付

13:00-13:50 総会

14:10-16:10 一般研究発表

※ 一般研究発表は、1 件あたり 30 分での発表・質疑応答を予定

16:30-17:30 シンポジウム I 「"Next GIGA"を教室の片隅で考える」

18:00-20:00 懇親会 (関西大学ミュージックキャンパス内)

2 日目 11月5日(日)

09:00- 受付

09:30-11:30 課題研究発表

11:30-12:30 昼食

12:30-14:30 一般研究発表、企画委員会セッション同時開催

14:45-16:15 シンポジウム II 「日本教育メディア学会のこれまでとこれから」

2. 大会までのスケジュール

7月10日 課題研究プロポーザル受付開始(Web サイト及び学会員 ML で周知)

~~8月10日 課題研究プロポーザル締切~~

~~8月31日 課題研究結果通知・大会参加申込開始・一般研究発表申し込み開始~~

~~—————(9月10日一般申込開始をWebサイト及び学会員MLで周知)—————~~

~~10月4日 課題研究・一般研究原稿提出期限、事前参加費振込期限~~

(★10月15日(日)まで延長しました)

<https://forms.gle/YsZQvoLAPYPnUYYy8>

3.参加費・参加申込について

大会参加費・懇親会参加費

Peatix に対応，事前申込は 10 月 15 日（日）まで（延長），それ以降は当日扱い
懇親会に参加希望の方は，あわせて Peatix にてお申し込みください。

<https://peatix.com/user/signin>

会員 3,000 円(事前)，4,000 円(当日)

非会員 4,000 円(事前)，5,000 円(当日)

学生会員 1,000 円(事前)，2,000 円(当日)

学生非会員 2,000 円(事前)，3,000 円(当日)

※ただし，非会員の現職教員は無料

懇親会 6,000 円（10 月 15 日（日）まで（延長）の事前申込制）

【発表用の接続機器】 ノートパソコン等は各自でご準備ください。デバイスからスクリーン画面へは，**AppleTV 接続および C-type-HDMI 端子接続の準備**をしております。**C-type** 以外の場合は，**HDMI 端子へ接続するための変換機材**をご持参ください。

【発表者の資格】

・[発表者]は，本学会の会員(正会員，学生会員，団体会員，名誉会員)に限ります。

今回の発表を機に，学会に入会いただく場合は発表できます。ただし，会員以外が連名者となることは，差し支えありません。ここでいう[発表者]とは，ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく，大会当日発表される方です。

・[発表者]が年会費を納入されていない場合は，発表申し込みを行えません。

また[発表者]は，10 月 15 日(日)まで（延長）に大会参加費を送金しなければなりません。なお，年次大会委員会が特別に発表を依頼した場合を除きます。

・団体会員になっている団体に所属している方は，個人で入会していなくても発表できます。発表申し込みの際に団体会員としての発表であることを申し出てください。ただし大会参加費を支払う必要があります。

学会入会の Web リンク：<https://jaems.smoosy.atlas.jp/admission/agreement>

会員マイページのリンク：<https://jaems.jp/admission/mypage/>

4.プログラム内容

シンポジウムⅠ「“Next GIGA”を教室の片隅で考える」

「GIGA スクール構想」によって情報端末に触れる機会が増えた。それは同時に「知識、身体・五感、空間・時間、子どもと大人、学校と社会」とはそもそも何なのかを考える好機でもある。本シンポジウムでは、「ICT 活用」を基盤に新しい学びを追究する気鋭の学校教員お二人をお招きして、次の時代を拓く実践のあり方を展望するとともに、メディアと私たち自身との関わりや、技術と世の中のあり方を考える場としたい。

登壇者：前田康裕（熊本大学），山口好和（北海道教育大学）

シンポジウムⅡ「日本教育メディア学会のこれまでとこれから」

日本教育メディア学会は1994年に「日本視聴覚教育・放送教育学会」として、「日本視聴覚教育学会」と「日本放送教育学会」を継承する形で発足。5年後の1998年の第5回大会から「日本教育メディア学会」と改称して、今年度は30回の節目の大会を迎える。本シンポジウムでは、長くこの学会に関わられた研究者、学生時代から継続して発表を続けている若手研究者、本学会に関わりが深い領域の研究者の3名が登壇、これまでの研究成果を踏まえた上で、今後の学会の方向性について参加者と共に考える。

登壇者：浅井和行（京都教育大学 理事・副学長），水越伸（関西大学教授，日本メディア学会会長），高林友美（サイバー大学講師），企画：宇治橋祐之（NHK 放送文化研究所）

企画委員会特別セッション「現職教員のための実践研究はじめの一步」

日本教育メディア学会企画委員会では、大会2日目に実践研究に興味のある現職教員向けの特別セッションを開催いたします。本セッションの詳細や参加方法は、日本教育メディア学会のWebサイトに後日掲載予定です。大会会場+オンラインのハイブリッド形式を予定しています。みなさまのご参加をお待ちしております。

コーディネーター：市川尚（岩手県立大学），浅井和行（京都教育大学），関戸康友（パナソニック教育財団），中川一史（放送大学）

内容：

- ・現職教員が研究を進める事例の紹介

登壇者：木村明憲（桃山学院教育大学），小林祐紀（茨城大学）

- ・実践研究の進め方
- ・現職教員同士や研究者との意見交換

< 課題研究 >

1) 課題研究テーマ：教職課程及び教員研修における ICT 活用

小柳和喜雄（関西大学），寺嶋浩介（大阪教育大学）

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方が論議され、教職課程では、ICT 活用に関する体系的なカリキュラムの構築と、運用、その質を確保する評価の取り組みが求められている。また自治体や学校の教員研修においても、同様に ICT 活用に関する取り組みが求められ、養成と研修をつなぐ教員の資質向上に資する指標の活用とその評価改善が求められている。本課題研究では、昨年度

に引き続いて ICT 活用に関する教員養成の取り組みについて議論するとともに、教員研修との接続について議論をしていきたい。

2) 課題研究テーマ：「情報活用能力」の育成と捉え直しの可能性

前田康裕（熊本大学），稲垣忠（東北学院大学），山口好和（北海道教育大学函館校），小林祐紀（茨城大学）

整備された ICT 環境を生かし、学びの探究化・STEAM 化が求められる中で、「情報活用能力」の重要性はこれまで以上に認識されつつある。しかしながら、学校現場を概観すると「情報活用能力」をどのように育成すればよいのかという実践面での課題とともに、授業者自身、また保護者や子どもたち自身も、どのような「能力」と理解すれば良いのかという根本的な問いに直面しているようにも見える。こうした問題状況について、さまざまな校園種の実践者及び多様な研究分野の構成員を要する日本教育メディア学会ならではのマルチアングルな視点をもとに、幅広く議論したい。

3) 課題研究テーマ：教育メディア研究におけるアートベース・リサーチの方向性

岸磨貴子（明治大学），川島裕子（関西大学）

教育メディア研究の新たな研究アプローチとしてアートベース・リサーチを取り上げる。アートベース・リサーチには少なくとも次の3つの特徴がある。ひとつは、認知だけでなく、情動的、身体的な知の構築ができることである。アートの形式はさまざまな特徴があり、その独特な形式によって、多様な側面（たとえば、感情、情景、空間、関係性など）を捉えることができる。次に、研究する人/される人の境界を超えて、共同的な知を構築することができる。そして、アートの表現は、一般の読者にとっても親しみがわきやすく、これまで学术界の中だけでとどまる傾向があった研究成果を一般の人の手に届けることができ、それにより、対話をひらくことができる。この観点からも研究参加者は、研究される対象ではなく、共に知を構築する共同研究者として位置付けることができる。教育メディア研究は、歴史的に、研究者と実践者（特に教師）が共同で研究を行い、さまざまな知を蓄積してきた。それらの実践を捉え直し、また発展させるためアートベース・リサーチの観点からその方向性を探していきたい。また、日本ではまだはじまったばかりのアートベース・リサーチに対しても、教育メディア研究が蓄積してきたメディア表現のさまざまな技法は、その実践の発展に貢献できるだろう。

4) 課題研究テーマ：学齢期前半までの ICT 活用の効果と課題

中村恵（畿央大学），安井政樹（札幌国際大学），堀田博史（園田学園女子大学）

GIGA スクール構想で整備された情報端末の活用が、次のステージに進展する中、小学校低学年の情報端末の活用頻度は他学年と比べ、あまり高くない。小学校の教科書改訂時期を迎え、生活科をはじめとした教科での ICT 活用頻度は増す、と予想される。一方、幼児教育でも ICT 活用が始まっている。保育システムの導入や担任に1人一台の情報端末の整備、さらに幼小接続を考えた幼児の ICT 活用である。保幼小接続に ICT 活用は、どのような役割を担うのかなど、学齢期前半までの ICT 活用について、参加者の皆さんと議論したい。

5) 課題研究テーマ：メディア・リテラシーを育む学習環境やカリキュラムの多様性

佐藤和紀（信州大学），後藤心平（広島経済大学）

メディア・リテラシーを育む学習環境は、学校、放送局、博物館など、多様な立場のもとで提供されてきた。それぞれがデザインする学習環境やカリキュラムにおいて、目的としている学習の内容や方法はどのように異なるのだろうか。これまで、それらを相互に比較したり、関連付けて検討することはあまりなされてこなかった。しかしながら、複雑に変化し続けるメディア社会に対応できる「メディア・リテラシーの拡張」が求められる中で、それぞれの取り組みから学び合うことには意義がある。そこで、本課題研究では、学校、放送局、博物館など、ある立場のもとで発展してきた学習環境やカリキュラムについて議論したい。

5. 後援

学校法人関西大学

6. 大会実行委員会

大会実行委員長 石井芳生（関西大学初等部）

委員 東口貴彰（関西大学初等部）

委員 森田弘一（関西大学初等部事務室）

7. 年次大会委員会

年次大会委員長 堀田博史(園田学園女子大学)

年次大会副委員長 小林祐紀(茨城大学)

委員 福田晃(金沢大学附属小)

委員 前田康裕(熊本市教育センター)

委員 山口好和(北海道教育大学)

委員 渡邊光浩(鹿児島女子短期大学)

お問い合わせ先

jaemsconference@gmail.com

国際学会 ICoME2023 の開催報告および ICoME2024 のご案内

2023年8月16日から18日にかけて、International Conference for Media in Education (ICoME) 2023 が、中国浙江省・温州大学にて開催されました。本年の ICoME は4年ぶりのオンサイトでの対面開催となりました。

ICoME 2023 は、日本教育メディア学会 (JAEMS)、韓国教育情報メディア学会 (KAEIM)、中国教育技術学会 (CAET)、TCCHawaii.org (NPO, 米国ハワイ州) が協力して開催する国際会議で、今大会で21回目を数えます。今大会のテーマは「Empowering the Future of Education with Digital

Intelligence」とされ、日本、韓国、中国、米国の教育メディア研究者による、AI やロボティクス、メタバースをはじめとしたバーチャル空間など、最新のテクノロジーの教育利用に関するキーノートスピーチが提供されました。今大会は、中国国内からを中心に、日本および韓国からも多数の教員・学生の参加がありました。コンカレントセッションおよびラウンドテーブルセッションの発表数は以下の通りです。

－コンカレントセッション：35 件

－ラウンドテーブルセッション：68 件

大学院生や学部生によるラウンドテーブルセッション 68 件の中から、特に優秀と評価された 14 件の発表に対し、Young Scholar Awards が授与されました。

今大会は、4 年ぶりの対面開催でしたが、やはりオンサイトでの開催の意義を感じる機会となりました。一方で、2023 年台風 7 号の影響で日本からの航空便の多くが欠航となり、急遽オンサイトからオンラインでの発表に変更となるなど、イレギュラーな対応が迫られる大会でもありました。このような状況でも、ホストである温州大学の関係者の皆さまは柔軟に対応くださり、キャンセルすることなく発表できる環境を提供くださいました。また同時に、発表者の皆さまにも急な変更にもかかわらずご対応いただきました。全ての関係者の方々の建設的かつ即興的な対応によって、大きなトラブルなく大会を終えることができました。改めて皆さまに御礼申し上げます。

ICoME2024 は、本学会がホストとなり、日本にて開催されます。前回の 2020 年大会は、新型コロナウイルス感染症によりオンライン開催となったため、8 年ぶりの日本開催となります。開催場所および日程は以下の通りとなっております。ご予約いただきますようお願いいたします。なお、ウェブサイト等については、準備が整い次第お知らせいたします。

－開催場所：明治大学中野キャンパス（東京都中野区）

－開催日程：2024 年 8 月 21 日（水）－23 日（金）

2023 年度 第 1 回研究会のご報告

テーマ「学習者が主体性を発揮する学びと教育メディアの活用／一般」

2023 年度第 1 回研究会が、2023 年 6 月 17 日（土）に、桃山学院教育大学で開催されました。今回の研究会も前回到引き続き、対面及びオンラインでのハイブリッド開催となりました。

研究会のテーマは「学習者が主体性を発揮する学びと教育メディアの活用／一般」として発表の募集を行い、17件の発表、全国各地から95名の参加申込を受け、70名ほどの参加がありました（現地参加は31名）。

研究会（12:30～16:45）では、オンライン・オンデマンド授業との学生の学びやSAのスキルに関する研究、教育メディア研究に関する動向、大学での講義におけるコンセプトマップにおける評価、小学校でのドローンを活用したプログラミング教育に関する研究等についての発表がありました。また、研究会のテーマに関連した内容としては、自己調整学習の実現に向けた方略の検討に関する研究、タブレットPCの一人一台環境における授業実践に関する研究、情報活用能力の育成に関する研究についての発表があり、多岐にわたる興味深い研究発表でした。参加者からは、研究発表に対する積極的な意見・質問があり、発表に対する議論の深まりを感じました。

座長を務めてくださった皆さま、ご参加の皆さまのご協力により、大きなトラブルもなく活発な議論が行われ、会場では、対面での開催を喜ぶ参加者の姿も見られました。また、研究会後の懇親会にも20名以上の方々がご参加いただき、研究会での議論を継続・発展させる会話が盛んに行われていました。研究会にご参加くださった皆さまに、あらためて御礼を申し上げます。



文責：木村明憲（桃山学院教育大学）

2023年度 第2回研究会のご案内

テーマ「先端技術・教育データの利活用と教育メディア／一般」（現地開催）

日時 2024年3月17日(日) 10:00～16:00(発表件数によって変更の可能性があります)

会場 長崎大学 文教キャンパス 総合教育研究棟

<https://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/access/>

担当 長崎大学情報データ科学部・瀬戸崎典夫

主催 日本教育メディア学会

次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術と教育データの効果的な利活用は、現代の教育課題の改善・解決や、教育の質を高める上で注目されています。また、Society5.0に向けた人材育成に向けて、教育ビッグデータやAI、IoT、VR/ARなどの先端技術を活用した教育メディアを積極的に活用した教育実践や教材開発に関する研究知見を蓄積していくことが重要だと考えます。

そこで、本研究会では、「先端技術・教育データの利活用と教育メディア」をテーマに、教育メディアを利用した教育実践や教材開発に関する研究発表を募集します。また、本テーマに関連した研究のみに留まらず、教育メディアに関する幅広い発表（一般）も歓迎いたしますので、多数のご参加・ご発表をどうぞよろしくお願い致します。

■開催方法

現地での対面開催とオンラインによるハイブリッド開催です。発表者は、申込時点で対面による発表かオンラインによる発表か選んでいただきます。対面参加者は、オンラインを含むすべての発表に参加・質疑ができます。オンライン参加者は、すべての発表を聞くことができますが、質疑はオンライン発表についてのみ可能です。

■発表申込締切 2024年1月31日（水）

■原稿提出締切 2024年2月29日（木）

■参加申込締切 2024年3月10日（日）

発表者・参加者とも対面・オンラインを問わず、必ず下記フォームより参加申込を行ってください。日本教育メディア学会会員でなくとも発表・参加が可能です。

■参加費 無料

■参加・発表申込フォーム <https://forms.gle/36NxLb6x4K9HRqQ86>

■その他

発表に関する詳細は、以下をご確認いただきますようお願いいたします。

<https://jaems.jp/meeting/guideline.html>

論文投稿のご案内

編集委員会

『教育メディア研究』特集号「教育データを活用したメディア教育のこれから」(Vol.30, No.2)の論文は、2023年8月15日で締め切りました。多くの投稿ありがとうございました。現在審査を進めております。

なお一般論文は随時受け付けております。

Vol.30, No.2は、2024年2月末に発刊を予定しております。

Vol.31, No.1は、2024年8月末に発刊を予定しております。

「投稿規程」(<https://jaems.jp/journal/kitei.html>)を熟読の上、「テンプレート・投稿方法」のページから登録と投稿を行ってください(<https://jaems.jp/journal/guideline.html>)。

多く会員からの投稿をお持ちしております。

以上

学会費納入のお願い、入会者・退会者

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日)の年会費(正会員7,000円、学生会員4,000円)が未納の方は、会員システムからお手続きください。学会HPの「会員マイページ」よりアクセスいただくことが可能です。事務手続きの漏れを防ぐためにも、会員システムを通じたお支払いにご協力ください。

銀行振り込みをご希望の場合、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店(ヨンイチハチ店) 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会(ニホンキョウイクメディアガクカイ)
--

※ゆうちょ銀行口座からの振り込みの場合は、下記記号番号をご利用ください。

記号：14160

番号：8658501

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、**振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」**にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、会費納入に併せて**年度ごと**に学生証などの証明書類のスキャンまたは写真データを会員システム経由で事務局宛に提出してください。**卒業・修了**などにより学生会員の条件を満たさな

なくなった場合は事務局にメールでお知らせください。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」をご登録の住所に郵送しております。メールの不達、年度末の学会誌の返送が複数発生しております。確実にお届けするために、定期的に会員マイページにログインの上、登録情報の確認をよろしくお願いいたします。

また、まだ会員システムからマイページへのログイン登録がお済みでない方も、この機会にマイページ登録 (<https://jaems.jp/admission/mypage/>) をよろしくお願いいたします。

【入会者・退会者・除籍者】※敬称略

入会者・正会員 (13名)・・・榊原 範久, 中尾 教子, 秋葉 広人, 沼田 真明,
前多 香織, 小岩 (引間) 真弓, 古田 翔太郎, 後藤 宗, 柳 東汝,
小松 良介, 中岡 正年, 浅井 公太, 吉田 康祐
入会者・学生会員 (9名)・・・松田 登紀, 草本 明子, 伊藤 政英, 王 哲, 呂 佳瑞,
劉 煒, 李家為, 金松 萌々花, 南條 優
退会者・正会員 (1名)・・・渡辺 誓司

会費滞納に関する取り扱いを定めております会則第9条では、会費滞納の会員に対する扱いについて以下のように定めております。会費の納入状況についてご不明な点がありましたら、事務局 (office@jaems.jp) までご連絡ください。

第9条

会員の会費の滞納による除籍については、以下のように定める。

- (1) 正会員, 学生会員, 団体会員ならびに購読会員が、会費を3年間滞納したとき、その年度末をもって除籍され、会員の資格を喪失する。
- (2) 除籍された元会員が再入会するとき、滞納会費の納入を要する。

会員総数 381名・12団体
名誉会員 : 6名*
正会員 : 320名
学生会員 : 61名
団体会員 : 6団体
購読会員 : 6団体

(2023年10月5日現在)

*会員総数に含まず。6名の氏名は学会HPにて公開。

◆ 学会通信アーカイブ作成ご協力のお願い ◆

本学会は定期的に学会通信を発行し、学会 HP にて公開しています。現在、一部未公開となっている学会通信も揃えられるよう、学会事務局では以前の学会通信を探しております。お手元に**第 1-16, 18, 27 号**が紙もしくはデータ等で残っている場合、学会事務局(office@jaems.jp)までお知らせください。ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

日本教育メディア学会 事務局	広報委員会
〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1 明星大学 教育学部 今野貴之 研究室内	委員長 岩崎千晶 (関西大学)
E-mail : office@jaems.jp	副委員長 永田智子 (兵庫教育大学)
学会ホームページ URL : http://jaems.jp/	委員 井ノ上憲司 (大阪大学)
	尾崎拓郎 (大阪教育大学)
	高橋暁子 (千葉工業大学)
	多田泰紘 (京都橘大学)